

湘南亭茶室

下段の庭の中にある L字型をした建物は湘南亭である。これは築 400 年以上の茶室であり、重要文化財に指定されている。この茶室は、日本における茶の湯の普及に大きな功績を果たした茶人の千利休（1522～1591 年）の養子である千少庵によって建てられた。

茶室としては珍しい形のほかにも、独創的な「月見台」があることも湘南亭の特徴である。この月見台は月とは逆の方向を向いているのである。ここからは、茶席の客は月を直接見るのではなく、黄金池の静かな水面に映った月を楽しむことができるようになっている。茶室は当時から茶の湯の場所として使われていたが、噂によると、ある歴史的人物の一時的な隠れ家としても使われたことがあるとされている。19 世紀の政治家、岩倉具視である。岩倉は日本が封建制度から近代国家へと移行する際に重要な役割を担った人物だが、その政策が天皇の不興を買い、追放されたのである。